介護予防

私の視点「なぜここを質問したか」

本町の高齢化は今後ますます進む。自分の身体は自分で管理するといった、いわゆる「セルフケア・セルフメディケーション」の環境を整えることが必要と考える。

介護予防と生きがいづくりの今後の方向性は

髙橋（たかはし） 紳章（のぶあき） 議員

録画配信はこちらから▶

答弁（町長）　主体的に予防に取り組める環境づくりを進める

問　各小学校区での介護予防教室の開催状況と利用者数の現状は。

答　健康課長

小学校区ごとに毎週1回、1時間程度の時間で開催。

登録者数は令和7年4月時点で合計285人、前年度に比べ40人増。

各小学校区	登録者数
宇美小校区	44人
井野小校区	30人
桜原小校区	72人
宇美東小校区	80人
原田小校区	59人

問　福祉サポーターの登録者数は。

答　健康課長

令和6年度末時点で福祉サポーターの登録者数は72名。

問　町が考える福祉サポーターの役割はどのようなものか。

答　健康課長

主な活動は介護予防教室の運営支援が中心。本来の役割はこうした活動にとどまらず、地域の中でより本質的な支援活動に携わることと考える。

問　介護予防教室の周知や申込方法は。

答　健康課長

町や社会福祉協議会ホームページのほか、社協だより、高齢者便利帳、認知症ケアパスといった冊子に掲載。また、各自治会で対象者へのお声掛けをお願いしている。

申し込みは、健康課や社会福祉協議会窓口で受け付けている。

問　介護予防教室利用者の送迎は。

答　健康課長

利用者は基本的にご自身で会場まで来ることが条件であるが、今年度から利用者の送迎を開始。

今後も利用者の実情に寄り添いながら柔軟に対応していく。

問　介護予防教室でのセルフメディケーションの推奨や運動機能改善などの充実を図り、利用者を増やす取組が必要であると考えるが、介護予防と生きがいづくりの今後の方向性は。

答　町長

今年度から運動機能の維持・向上を目的とした新たな介護予防プログラムの導入について協議を始めている。

保健事業と介護予防を一体的に捉え、ライフステージに応じた切れ目のない支援を提供し、町民の皆様が健康に関心を持ち、主体的に介護予防に取り組んでもらえるよう環境づくりを進めていく。

元気アップ体操（介護予防教室の様子）

質問を終えて

介護予防教室の活動内容の充実と誰もが参加しやすい環境を整えることで、セルフケアの意識が高まることを期待する。

校区コミュニティ

私の視点「なぜここを質問したか」

小学校区コミュニティ運営協議会は、設立後約10年経過。校区コミュニティと自治会との連携がうまく機能していないとの声を聴くが、町の支援状況を問う。

校区コミュニティに対する支援の強化を

白水（しろうず） 英至（えいじ） 議員

録画配信はこちらから▶

答弁（町長）　支援の在り方を再議論し、推進計画に反映させたい

問　町が行ってきた校区コミュニティに対する支援内容は。

答　地域コミュニティ課長

地域コミュニティ交付金（自治会活動費を含む）を交付。先進地域へ視察、県や町主催の研修会を実施。

連携支援として、当課職員・地域づくりコーディネーターが校区コミュニティの定例会などに参加している。

問　町が行ってきた支援の成果をどう感じているか。

答　地域コミュニティ課長

校区コミュニティが目指す姿を明確にし、事業展開されている。

ある校区コミュニティは、実行委員会形式など組織を改編してスリム化が行われ、企業などの団体とのつながりも広げられている。

問　校区コミュニティと自治会との連携がうまく機能していないという声に対する町の対応は。

答　地域コミュニティ課長

校区コミュニティと自治会の受け持つ役割などを把握し、各事業の目的の再確認と内容の整理が必要だと考える。

当課のコーディネーターを中心に支援していきたい。

問　町、各種団体、校区コミュニティの連携を密にし、減少傾向にある地域のスポーツ行事などの実施に取り組んでは。

答　地域コミュニティ課長

町は、関係機関や各種団体と連携してスポーツ行事の実施に取り組んでいる。

今後もスポーツ行事も考えるが、地域祭りや親子イベントなどの盛り上がる行事を取り入れることなどを提案しながら総合的に実施できればと考える。

問　町が考える校区コミュニティの今後の方向性は。

答　町長

宇美町地域コミュニティ推進計画は、策定から10年が経過している。また、社会情勢も想定より早いスピードで変化しており、今年度はこの計画の改定を予定している。

原点に立ち返り、町民の皆さんと時間をかけて議論して進めてきた共働のまちづくりの考え方や地域コミュニティへの支援の在り方を改めて議論し、計画に反映させていきたい。

町民と共に歩みを進めてきた共働のまちづくり

質問を終えて

校区コミュニティやスポーツ協会、他団体と協議され、スポーツで活気あるまちづくりを期待する。